

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)ディークレスト新潟駅南新築 新潟県新潟市中央区笹ロー丁目9番1ほか 商業地域、準防火地域 集合住宅 2025年1月 予定 609.20 m ² 308.15 m ² 2,529.48 m ² 地上10F RC造 実施設計段階評価 2023年7月3日	
---	--	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{37.1}{31.9} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	2.3		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 1.0
			維持管理	Q2.1.3 3.0
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.7		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1 3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

維持管理に配慮し建築物を長く安心・安全に使い続けるために、防汚性の高い内装仕上げ材料を採用し、床面は適度な水を使用して洗浄可能な設計としている。また、維持管理方法が大きく異なる床材を接近させないよう考慮した。持続可能な循環型社会づくりのために、主要水栓は節水型とし、躯体材料以外におけるリサイクル材の使用を行っている。部材の再利用可能性向上のために、LGS工法の採用し内装材と躯体が錯綜しないよう配慮した。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ディーケレスト新潟駅南新築	階数	地上10F
建設地	新潟県新潟市中央区笹ロー1丁目9番1ほか	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	75 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年7月3日
敷地面積	609 m ²	作成者	第一建設工業株式会社 後藤
建築面積	308 m ²	確認日	2023年7月3日
延床面積	2,529 m ²	確認者	第一建設工業株式会社 後藤



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」において、レベル4を超える性能とし、省エネルギーに配慮した。F☆☆☆☆の内装建材を採用し、居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保する等、室内空気環境にも配慮している。長寿命な設備配管および主要内装仕上げ材を採用し、建物の長寿命化を考慮している。	その他 特になし
Q1 室内環境	日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級でレベル4を超える性能とし、外皮性能に配慮。F☆☆☆☆の内装建材を採用し、居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保する等、室内空気環境に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 防犯性に配慮し、前面道路からの視線を遮るような塀を作らず、暗がりを作らないように照明を配置した。
LR1 エネルギー	日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級でレベル4を超える性能、エコジョーズおよびLED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。光害対策を考慮し、広告物照明は行っていない。
Q2 サービス性能	設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。主要内装仕上げ材に関しても更新必要間隔を考慮して選定している。	
LR2 資源・マテリアル	主要水栓は節水水栓とし節水に配慮。MB、天井内配管、下がりスラブ上配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される